

路地裏の地球

牧師 山本 護

礼拝堂の高い軒下でスズメバチの巣が朽ちている。初冬に空き家となり、まだ間もないのに、どうやら鳥につつかれて崩れ始めているようです。頸が痛くなるくらい仰視していると、地球環境が崩壊するような幻に見えて、せつないような、冷や汗が出るような、憤りのような、奇妙な心持になりました。



廃墟と化した巣、地球、といった球形の連想からスマートボールを思い出しました。若い頃、詩誌ユリ

イカなどを片手に一服がてら、場末感漂うスマートボール屋へよく立ち寄った(店はい路地裏)。博奕形態はパチンコと同様だが、球は大きく盤面も斜めで、当時の手動式パチンコよりも球軌道が見定めやすい。そして流れている時間もゆるやかであった。パチンコ屋は騒々しく打ち方もせわしないが、私のスマートボール勝負は一球ずつ祈りを込めて打つので、店番のお婆さんが茶を淹れてくれたりした。百円か二百円で充分に楽しみ、ごくまれにセブンスターを三つ四つ得られる恩恵もありました。

スマートボール屋の床はコンクリートで、吸殻をそこで踏み消していた。そういえばあの頃の町は、吸殻やゴミが路傍に捨ててあり、バナナの皮でスッテンコロリンという漫画のような場面も実際に見たことがあります。それに比べて今日の都市や田舎町は随分清潔になり、公共マナーも良く、河川も綺麗になって在来魚が戻って来ているらしい。見える表面はそうであっても、その奥で環境は加速度的に悪化しており、地球がスズメバチの巣のように崩れる幻もリアルでそら恐ろしい。

「被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っている(マ 8:22)」。朽ちているスズメバチの巣は、被造物が共にうめいている徴ではないか。「被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいる(8:19)」。キリスト来臨と共に「神の子たちが現れる」終りの日まで、習いとなってしまっている消費行動を抑制して、被造物と共棲していきたい。

路地裏のスマートボール屋に流れていた時間を取り戻して、放ったボールの行方を一球一球きちんと見定めたい。地球は、絶妙に調整された盤面の釘に阻まれ、たまに当たり穴に入っても球数が増えてもやがて創造主に回収される。神が調整した釘を曲げてしまうことがないように、慎重に手元の地球を打ち尽くしたい。キリスト者には、百円か二百円で学べるとても重要な責任があります。Ω